第３次赤穂市男女共同参画プラン策定にかかる
ワークショップ　開催結果

１．ワークショップの目的

性別等にかかわらず、市民一人一人の個性と能力を十分に発揮できる社会の実現に向け、「第３次赤穂市男女共同参画プラン」の策定を進めるにあたり、赤穂市の課題や市民の考える方向性をグループで話し合い、その意見をプランへ反映させるためにワークショップを開催しました。

２．実施概要

【日　時】　令和５年１０月２５日（水）１８：００～２０：０５

【場　所】　関西福祉大学　アクティブラーニングルーム

【参加者】　市民：８名、大学生：６名、大学教員：1名、市職員：８名　合計２３名

ファシリテーター：関西福祉大学　教授　秋川陽一　先生

３．実施内容

【内　容】　◎ワークショップ趣旨説明

◎オリエンテーション

◎グループワーク

・市民、大学生、市職員の3つのグループに分かれ、それぞれ「男女が不平等だと思うこと」を出しあい、「①家庭・②職場・③学校・④地域・⑤その他」に分類する。

・各班で出た課題を発表し、同じ意見を共有する。

・課題の中から「地域での男女不平等」について、各グループで話し合い、その対策等を考え発表する。

【市民グループが抽出した課題】

場　面	課　　題
家　庭	・「男子厨房に入るべからず」の考えが残っている ・「家長」の考えなど、役割分担意識が根強く残っている（葬式の喪主が男性など） ・家庭で女性が妊娠・出産・育児を頑張っている中、それをサポートする施設が少ない（コミュニティーが少ない）
職　場	・管理職の女性割合が圧倒的に少ない ・男性が育休を取る環境がまだまだ整っていない ・子育てするにあたって、男性は仕事を続け、女性が離職する割合がまだ多い
学　校	・リケジョ（理科系の女子）が少ない ・教員管理職の男性割合が多い ・男女で制服を選べないところがほとんど
地　域	・地域のおじさんに「まだ結婚しないの？」などと言われる ・自治会長などの地域のトップは男性が多い ・子連れで出かけるのが大変 ・地域の祭りの参加に男女の区別がある
その他	・レディースデー、女性専用車両など、男性目線で作られた制度が多い ・議員になる女性の割合が少ない ・災害時のケアは女性に偏りがち

【大学生グループが抽出した課題】

場　面	課　　題
家　庭	・「男の子は男の子らしく」「女の子は女の子らしく」と言われた（親、祖父母に） ・「女の子だから裁縫、料理はできないといけない」と言われて育てられた
職　場	・男性がリーダーに選ばれることが多い ・「重いものを運ぶのは男性」など、仕事の役割分担が偏っている
学　校	・幼稚園の頃、男の子は青色、女の子は赤色といった色分けをされた。好きな色を選べなかった ・男女で名札の色やズボンのラインの色を分けられた（高校でも） ・保健の授業で「男の子は・・・」「女の子は結婚して家庭を作って子供を育てるのが幸せだ」と言われた
地　域	・「女性専用車両」はあるのに、「男性専用車両」はない ・「レディースデー」はあるが、男性の優待日はない ・祭りに男しか参加できない（神輿を担ぐのは男性）

【市職員グループが抽出した課題】

場　面	課　　題
家　庭	・女性の方が家事の負担割合が高い ・結婚にあたって夫の氏を名乗る女性が多い
職　場	・窓口は女性職員が多い ・受付、お茶くみは女性 ・カウンターの消毒等の雑務は女性が交代で実施している（当たり前になっている） ・育児休暇は女性がとる場合がほとんどである ・組合活動のリーダーはほとんど男性である
学　校	・野球・サッカーなど、部活動によっては部員に男女の偏りがある ・リーダーを決める際、男性を選ぶことが多い（生徒会長など）
地　域	・自治会での炊き出しや、食事会の接待は女性の役割など、地域活動の役割分担が偏っている ・街中に授乳室が少ない、道に段差があるなど子育て世代に優しい環境ではない
その他	・レディースデーや女性専用車両など、男女で利用できるサービスに差がある ・「世帯主は男性である」など、無意識の思い込みで決めつけられることがある

【地域での男女不平等とその対策について】

グループ	対　策　案
市民グループの意見	・子育てしている世代が気軽に集まれる場所がない、拠点が欲しい（母親クラブも衰退している） ・シッターが利用できるサービスがあれば、人生と家庭と仕事を両立できる女性が増えるのではないか ・児童館等で集まりを多くしてほしい ・関西福祉大学や企業等で、意見を言える場所や機会を提供してほしい ・地域の中で、年配の方の“当たり前に”気軽に物申せる人（大学生・高校生）との接点が必要 ・高校生や中学生が地域の次世代リーダーとなって活動することで、自治会の人々がまとまったり、中間世代も応援するようになるのでは ・職場のセクハラ・パワハラしている自覚がない人に、男女共同参画の研修等でリーダーをしてもらうことで、自分の行動・言動に気付き、学んでもらう ・まずは率先して、赤穂市役所、赤穂市議会から変わっていく
大学生グループの意見	・“人間平等”という教育を小さな頃からしていく ・“伝統”+“子どもの意見・女性の意見”で時代に合った意見になるのではないか ・地域の情報をわかりやすく発信する ・子どもにアンケートを取るなどして、今の時代の考えを大人に伝えていく ・学校と地域が連携した活動の継続や、人に興味を持てる教育の場の必要性を感じる
市職員グループの意見	・自治会等の集まりをする際、女性が参加しづらい時間帯があるので、地域で子供を預けられる仕組みがあれば良い ・親子で集まる拠点を作って、自治会外で第3のコミュニティを作る ・今回のワークショップのような、第3者の入った意見交換会の実施 ・女性の団体としてまとめて意見を出す ・自治会の役割を、毎年男女交代で担うようにすることで、違う意見や目線で考えることができる ・既にある地域のコミュニティの行事に、若い世代が全員参加できるような仕組みの改革が必要

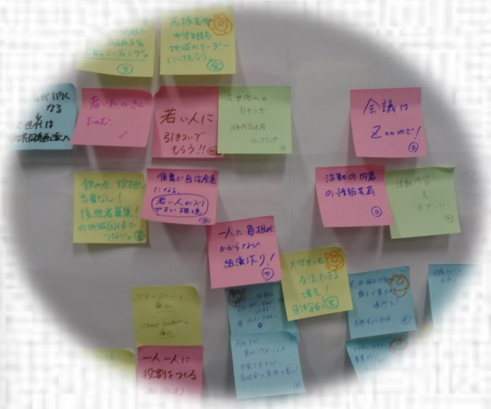
◎秋川教授の講評◎

「男女共同参画プラン」は「まちづくり」の中核です。自分の住むまちをどうしていきたいかという思いが必要です。「まちづくり」は市だけがやる仕事ではなく、市民のみなさんが自分たちでやっていこうという発想が大切で、その際に“男や女”ではなく、一人一人みんな違う、“多様性（ダイバーシティ）”の考え方が重要になります。“性”の捉え方を年配の人にわかってもらう必要があり、人は男女で分けられるものではなく、1人の人間として「男性から女性まで一つの帯になっている（グラデーション）」と捉えて理解していく必要があります。

一人一人が「みんな違って、みんなイイ人間」であること、それを教える教育から進めていくことが大切になってきます。

今回のみなさんの意見を聞いて、「世代を超えた交流」が新しい発想を生み出していくかもしれないと感じました。

意識を変えて、行動に移していくことが大切です。みんなが力を合わせて、世の中を変えていくことで、男女共同参画社会づくりが進むでしょう。



ご参加いただいた皆さま、ご協力ありがとうございました！